

エリア

AREA

2008. 3. 21

No. 46

平成19年度 国土交通省地域振興アドバイザー派遣・終了報告

平成19年度のアドバイザー派遣がすべて終了しました。この1年間の取組をきっかけとして、新たな地域振興へ踏み出していただきたいと願っています。

今回のニュースレター「エリア」では、受け入れ地域の方々に、1年間の派遣を振り返りながらレポートしていただきました。内容は、① 派遣テーマと1年間の概要、② 派遣の成果、感想、反省点など、③ 来年度に向けた予定や希望の3点です。

秋田県／秋田市

市勢活性化推進本部主事 鈴木 大

1. 派遣のテーマと1年間の概要

川反地区は東北有数の飲食店街であるが、近年、来街者の減少に伴い、空き店舗や空き地等が目立ち、地区の魅力が薄れてきたことから、市と地元の飲食店関係者で組織する川反・外町振興会（以下「振興会」という）が連携し、「みんなで考える、川反の賑わいづくり」をテーマに、地域振興アドバイザーの派遣を受けることとしたものである。

1回目の派遣では、川反地区の街並みや飲食店を調査した上で、意見交換を行い、アドバイザーからは「川反のシンボルがない」「何を魅力として発信するのか」等の意見が出された。また、次回までに「昼の活性化」「夜の魅力向上」等について検討することが宿題とされた。

その後、振興会では、一般市民にも参加を呼びかけ、意見交換会を開催し、さまざまな意見を集約した上で、夜の魅力づくりに向けた取り組みをまとめた。

2回目の派遣では、そうした検討も踏まえ、振興会から「新たな食の開発や季節毎のイベント等、当面、夜の魅力向上に取り組む」との説明があったが、アドバイザーからの指摘は「振興会主体で川反振興に取り組むには限界があり、まちづくり会社等の新たな推進母体を設立すべきである」というものであった。

これを受け、振興会では、これまで想定していなかった新たな推進母体の立ち上げについて検討を重ねた。

3回目の派遣では、「20年度に振興会会員が発起人となる会社およびイベント等の企画・運営を担うサポーター・クラブを設立し、川反通りでの歩行者天国や各種イベントを実施する」ことを表明した。さらに、新会社では「川反ブランドの開発や集客力のあるイベント実施に取り組んでいく」等の説明があった。

こうした説明に対し、アドバイザーからは「新たな推進

母体やサポーター・クラブの話が出て来たのは良かった」「会社の設立自体が市民に対して地元のやる気を示す良いPRになる」「今後3年程度の事業計画をたてて進めるべき」との発言や助言がなされた。



アドバイス風景

2. 派遣の成果、感想、反省点など

これまでも川反地区振興に向けた取り組みがなされてきたが、新たな推進母体やサポーター・クラブの設立を前提に取り組むことが合意されたことは、今回の派遣の大きな成果である。一方、具体的な取り組みや、成功事例を共有するまでには至らなかったことが課題とされる。

3. 来年度に向けた予定や希望

振興会では、新会社やサポーター・クラブと連携を図り、歩行者天国やイベントの開催など、安全・安心で賑わいのある川反地区の再興に向けた取り組みを進める。実施に当たっては、国等の助成制度の活用を考慮しており、商工会議所などの協力も得ながら、振興に向けた取り組みが継続され、川反地区振興が図られるよう支援していきたい。

1. 派遣テーマと1年間の概要

上野村では、平成10年に第三セクター株式会社上野振興公社を企業的センスの導入や株式会社等のメリット導入のため立ち上げた。当時より現在に至るまで村の観光施設や宿泊施設の運営を行ってきた。農山村地域である当村は村民の雇用が土木業等で支えられたため、公共事業等の減少等の理由によりリストラ等が予想され、株式会社上野振興公社を中心とした団体の業務拡張や経営状況の安定が今後はより一層望まれるところである。また、新しい業務も実施していきたいため、組織の再構築や経営の充実、人材育成等をテーマに、今回アドバイザー3人の先生方にご提言やアドバイスをいただいた。

第1回目は施設等の現地調査と上野振興公社の問題点等の整理を中心に実施した。

第2回目の第1日目は各アドバイザーの取り組んでいるプロジェクトや研究についてのセミナーを上野村の状況に合わせて実施し、第2日目は上野村の地域経営についてや上野振興公社経営力の向上についての指導を実施した。

第3回目は最終的な提言やアドバイス事項を3人のアドバイザーより1人ずつ実施していただき、その後関係者との意見交換等を実施した。



アドバイス風景

2. 派遣の成果、感想、反省点など

3人のアドバイザーの方に声を揃えてアドバイスいただいたことは、計画をしっかり持ち経営や事業を推進していくこと。出口が分からぬままでは良い結果は得られないということである。また、新たな地域経営計画が必要となり今後はその計画に沿って事業を行っているべきであるとのこと。上野振興公社については、全体事業の洗い直しと今後の運営計画では減価償却を含めて策定する必要がある、そうしなければ施設の修繕や大改修を行うときに膨大な経費を必要とするときの財源がないこととなる。物産販売が非常に弱いので特産品開発と絡め製造

をしっかり行い販売額を伸ばしていくことが重要等様々な面でアドバイスをいただいた。

3. 来年度に向けた予定や希望

今年度アドバイスを受けたことを早速に対処していきたいと考えている。アドバイザーの先生方にも実行をすぐ行うことが重要だといわれているので、出来ることは速やかに実行するよう予算にも反映させていきたいと考えている。各アドバイザーの先生方よりご提言やアドバイスいただいたことに感謝申し上げ、来年度以降もこれらを指針としながら、上野村の活性化や上野振興公社の充実に努めたいと思います。

1. 派遣テーマと1年間の概要

観光については、国が「観光立国ニッポン」の宣言を行い、県においても「かながわツーリズム」を提唱しており、産業としての観光の振興を推進しています。

さらに、本市を含む県央地区では、「県央・県北地域観光推進協議会」を設置し、地域の観光資源を活かした取組みを積極的に展開しています。

そして、本市の観光施策は、総合計画に位置付けられた「観光事業の充実」と「新たな観光の発掘」という2本柱に基づいて、個々のセクションが事業活動をしています。しかし、横断的な繋がりが薄いために、個々の観光情報で、市民や来訪者に不便をかけているのが現状でした。

そこで、市民や議会からの要望により、本市でも観光協会の必要性が求められるようになり、これの立上げを目的として、関係団体と勉強会を始めたのが切っ掛けでした。

これの検討結果として、次の点について専門家のアドバイスを願うことになりました。

- (1) 観光協会設立への取組みの経緯と課題について
- (2) 観光協会設立の組織のあり方と運営の方向性について
- (3) 観光協会設立の留意点と展望について

第1回目の派遣は、本市の現状を理解してもらうために、市内に点在する名所・旧跡や、相模川及び河川敷きの「大風」会場、市の花である「ヒマワリ」植栽の農地、そして歴史的な街並みを保存している「湧水と歴史の里 鈴鹿・長宿」地域などの主な観光エリアについて視察を行い、その後に本市が抱える課題について意見交換を行いました。

アドバイザーの方からは、私達が普段見慣れている風景や地域性について、特徴のある地域資源になりえるとの高い評価を頂きました。

第2回目では、先進市の事例紹介の後、協会職員は一般からの公募制が望まれること、会員確保での特典の検討、専従者以外の運営サポーターの必要性等課題の整理及び考え方など、意見交換と助言を頂きました。

第3回目では、本市が今後進むべき方向やその方策等について、アドバイザーの方から適切な指導と助言を頂きました。これにより、私達が目指す「観光協会の設立」への基礎固めが見えてきて、全員の意が一つになりました。

2. 派遣の成果、感想、希望

本市は、平成19年11月に念願の『座間市観光協会』を設立しましたが、年度途中であったため、本来の事業を行うことが出来なかったことが反省すべき点でした。

協会の職員は、デザイナーやフリーライターの経歴を持つ女性2名と、大手企業の開発部門に所属した後、独立して企業診断を行っていた経験を持つ事務局長で構成されることになりました。それぞれが観光に関わる職業を身につけているので、同協会は益々発展していくものと信じています。



「座間市観光協会設立式典」でのパネルディスカッションの様子
(左はコーディネーターの羽田アドバイザー)

3. 来年に向けた予定や希望

次年度に向けた事業計画案と収支予算案は、徐々にその全容が固まりつつあります。

次年度は、積極的に営業活動を取入れて会員の拡大を図ることと、広告収入も多方面へ求めて行きたいと考えています。

事業の面では、当初に設立記念事業として実施した「相模七福神めぐり」と「日産自動車(株)座間事業所の記念車庫見学ツアー」の2事業を定着化させることと、新たに「花火大会観賞と懷石料理」や「ヒマワリの写真と写生コンテスト」、「鈴長郷の灯りとホテル鑑賞会」更には「座間ブランド」などを仕掛けて、多くの人に本市へ来訪してもらい、座間の魅力を存分に堪能して頂きたいことと、行政側も市民並びに観光協会と協働して観光行政の充実に努めて行きたいと考えています。

1. 派遣テーマと1年間の概要

中山間地域である当市は、山間部を中心に農業を基盤とした集落を形成してきましたが、地域力の衰退はそこに暮らす人々の農業離れ、集落離れへとつながり、集落存続の危機をもたらしています。今年度、この課題を解決するための施策の一つとして、「各集落で暮らす人々が、自分の集落がいまどのような状況なのか、どのような課題を抱えているのかに気づき、その解決策について集落みんなで考え、アイデアを出し合い、そのアイデアを共有し合い実行に移せる場」をつくるための「集落での『寄り合い』ワークショップ」(以下「寄り合いWS」という)に取り組みました。取り組み初年度の今年度は、モデルとして5集落を決め、アドバイザー派遣制度を利用しました。

アドバイザー派遣1回目では、「WSもどきで会議」と銘打ち、5集落の代表者と、その集落を支援するワークショップチームメンバーを中心に、KJ法のワークショップを体験しました。体験を通して、この寄り合いWSの意義について参加者で確認し合いました。

アドバイザー派遣2回目では、「集落での『寄り合い』ワークショップ中間報告会」と銘打ち、5集落の代表の方々による経過報告をパネルディスカッション形式で行いました。他集落を見ることがアドバイザーの助言は、動きを加速させる意義がありました。また、市全体の集落への関わり方の現状を知りたいとのアドバイザーの意向を受け、当農林課以外の4課のヒアリングも行いました。



「集落での『寄り合い』ワークショップ中間報告会」

アドバイザー派遣3回目では、「中山間地域高齢化集落の対策に関する意見交換会」と銘打ち、課を横断しての意見交換のワークショップを行いました。その中で、「当市においても、集落と行政の間を支える『中間支援組織』が必要では」との声が、3グループ全てからあがるなど、課を越えてお互いの考えを共有できたと思います。



ワークショップ風景

2. 派遣の成果、感想

集落によって歩みのスピードは様々でしたが、他集落の動きやアドバイザーの助言があることで、いい意味での競争意識が芽生え、寄り合いの場を何度も持ってくれたようです。また、それを支援する側のワークショップチームメンバーも、集落への関わりの中で、また、課を横断しての意見交換の中で、集落が抱える課題、そして支援する側の課題や取り組みについて、意見の共有ができたようです。

3. 来年度に向けた予定や希望

農林水産省の平成20年度の施策の筆頭に、「人材への直接支援」として「地域力」という言葉が出てきます。「市民が居住地で抱える生活問題に対して共同で解決していく力」を育てることが農業振興になると、国も施策として打ち出しました。市としても、今年度の取り組みを踏まえ、集落の気持ちの醸成から農業振興、農業の存続につなげられたらと思います。

新潟県／南魚沼市

産業振興部商工観光課 清水 明

1. 派遣テーマと1年間の概要

南魚沼地域は、新潟県南部の群馬県境の魚沼盆地に位置し、関越自動車道や上越新幹線など太平洋側と日本海側を結ぶ交通の大動脈が集中していることから、新潟県の南の玄関口としての機能強化を進め、衰退化する観光交流の再生による地域振興をいかに進めるかが課題となっていました。

また、特に2009年にNHK大河ドラマ「天地人」の放映、JRのDC事業なども決定し、大観光年と位置づけて県を挙げてのPR事業が展開されることから、これらに関連した地域内での具体的な事業の検討と体制の整備が急務とされていました。

こうした課題解決に向けて、このたびの事業における具体的な検討事項として、次の点にテーマを絞ってアドバイスをいただきました。

- (1) 隣接市町村も含めた広域観光振興ビジョンの策定と行動計画の確立
- (2) 施設中心型から体験中心型へ観光交流テーマのシフト
- (3) 情報発信機能の充実
- (4) 「天地人」などを契機とした持続的地域活動を支える体制づくり

第1回目は、高速道の情報発信基地となる塩沢石打SAや、「天地人」関連施設をはじめとする地域の主要施設とアクセスの状況についての現地視察を実施し、歴史史跡に関する意見交換と観光資源としての活用策について検討しました。アドバイスをいただきながら、県、市町村といった行政域を越えた広域連携や交流テーマのシフト、サイン統一などのアクションプラン策定における優先順位やポイントの絞込みと整理ができました。

第2回目は、県、市、観光関係団体、商工会、地域活動団体などの参加により、それぞれの活動状況についての情報交換と今後の地域資源の広域連携活用に向けた組織化の検討及び合意形成を行いました。情報発信機能の充実についても、地域内の事例検証と先進事例のご紹介をいただき、今後の事業実施に向けた具体的なお提案をいただきました。

また、当地域のセールスポイントとなる農林水産資源や「食」の提案について、新規開発と情報発信について具体的な事例紹介とアドバイスをいただきました。

最終回は、群馬県、長野県の隣接市町村との連携にも触れて検討したほか、地域の後継者層との意見交換も実現し、中長期的な方向付けもアドバイスいただきました。

また、「天地人」関連事業については具体的なアドバイスもいただき、近隣市町村と連携しながら、地域振興の契機としての意義付けが確立できました。



アドバイス風景

2. 派遣の成果とその後

広域連携について：「天地人」の関連地域の連携に加

え、歴史、文化など地域特性の共通項を持つ地域連携について、県・市町村といった行政域を越えた協議ができた結果、協議組織立ち上げ（既存協議会の機能拡充や構成メンバーの見直しも含む）のほか、サイン統一などのハード事業、周遊コース設定による旅行メニュー開発などのソフト事業も具体化が進み、次年度事業の目標設定ができました。また、中期的な達成目標を設定することができ、今後のステップアップも計画的に進めることが可能となりました。

地域振興について：大河ドラマ関連事業を契機とした地域資源のブラッシュアップ事業など、官民一体となった施策決定に向けた共通認識ができました。特にドラマ放映と新潟県大観光年にあたる「09対応」について、異業種連携など効率的な事業実施に向けた方向性が明確になりましたし、アドバイスをいただきました「09後対応」を根底に据えながら事業展開を進めることができます。

アドバイザーの皆様には、過密スケジュールの中をご都合いただき、熱心にアドバイスをいただきました。次年度以降も個別の事業の中で、更なるステップアップに向けて引き続きアドバイスをお願いすることとなりそうです。

◎ 2009年 皆様のお越しを

地域を挙げてお待ち申し上げます！

石川県／加賀市

総務部企画人事課企画係長 永田 祥二

平成17年10月1日、隣接する加賀市と山中町は合併し、「新」加賀市として新たな一步を踏み出しました。

合併による市域の拡大は、都市に活力をもたらす一方で、市内各地域の格差が一層顕著になります。自らを育んできた、地域の歴史や伝統、文化について、今一度見つめなおし、その地域の特性に合ったまちづくりを進めていくことが、今求められています。また、市の「まちづくり基本条例」や、総合計画においても市民との協働や、新しい公共空間の形成を謳っており、まちづくりへの地域住民の主体的な取り組みや、行政や企業との協働を積極的に推進していくことを目指しています。

このような中、橋立地区は、北前船の里、越前加賀海岸国定公園、カニなどの豊富な海産物、温泉などの地域資源に恵まれており、未来を担う子どもたちのために、これらを活かしながら、これからのまちづくりを考えていこう、という気運が盛り上がってきました。ここに加賀市初の、住民主体のまちづくり計画策定部会が立ち上がり、行政も事務局として参加することになりました。

しかし、これら地域資源が、どの程度観光や地域おこしに活用できるのか、自分たちで判断できない部分が多々あります。そこで、数々の地域おこしの実績がある、アドバイザーの皆さんのご指導を受けながら、取り組んでいくこととしました。

昨年8月の第1回会議以降、これまでに7回の会議を行いました。このうち、アドバイザーの方には、3回のご出席をいただき、他市の参考例や取り組み方、地域の宝の活かし方など、数多くのご教示をいただきました。



ワークショップで発表する地域住民

当初、参加者の多くは、橋立地区に対する自分なりの「夢」を語り合い、大いに盛り上がりましたが、会議を重ね、自分たちは何ができるかを考える段階になると、「～なったらいい」から、「～したい」や「～していこう」への脱皮が、なかなかできない状況に陥りました。この時、アドバイザーの皆さんの、示唆に富んだアドバイスにより、前向きな議論に導いていただきました。

今後、60項目に及ぶ計画のうち、簡単なこと、できることから始めていき、地域全体での取り組みにしていこうことを目指していきます。この地元の情熱が、行政や地元企業をも動かしていくことで、市民協働を具現化できるのではないかと考えています。その時、名実ともに「橋立もん」計画が完成した、と実感できるのではないのでしょうか。

岐阜県／高山市

久々野支所地域振興課 南元 伸一

1. 派遣テーマと1年間の概要

「久々野地域の地場産品のブランド化と広域交流」

第1回目の派遣では当地の事情を見聞していただくとともに、地域の女性農業者、道の駅関係者らと意見交換を行いました。

第2回目の派遣には、「果実」と「野菜」それぞれの生産者団体の内部組織である二つの女性グループに、加工品を用いた料理を調理してもらい、出来上がった料理を囲んで交流会を開催しました。新しい発想でメニューを考案するという趣旨のもと、急きょアドバイザーの皆さんにも調理をしていただきました。



地域の人たちとの意見交換

第3回目の派遣では、第2回目のアドバイスをを受けて事前にコアとなるメンバーと打合せ会を開催した上でアドバイザーを迎えました。本田アドバイザーのお話の後「久々野の食を楽しむワークショップ」を開催し、参加者が当日持ち寄った食材から10種類の新メニューを考案し、調理と試食を行いました。



右は「久々野の食を楽しむワークショップ」
左上は本田アドバイザーによる事例紹介

2. 派遣の成果、感想、反省点

アドバイスを受ける過程において、参加者にはこれまでの活動の見直しを迫られることによる戸惑いがありました。また、事務局がテーマに沿った地域振興を漠然と捉えすぎていたために、アドバイスを受けるポイントを絞り込めず、参加者とアドバイザーの皆さんに困がゆい思いをさせてしまいました。

しかし、回を重ねるごとに、アドバイザーの的確な助言と巧みな誘導によって課題が絞られ、方向性が徐々に明確となるにつれ、参加者の顔つきも変わり、自らの活動に自発的に問題意識を持ち始め、これまでの狭い視野での活動から一皮も二皮も脱皮しようという姿勢が見受け

られるようになりました。

また、今後の活動の鍵となる人材も発掘でき、今回の参加者を中心とした、これまでになかった横断的なネットワークの基礎が出来上がったのに加え、アドバイスを受けるにつれて、我々がこれまで地場産品を個々にプロモートすることに捕らわれすぎていたこと、また単一のグループのみに改善を求めていることに気付かされました。

地域にある資源を総合的に捉えるとともに、地域住民の個々の役割を的確に見極め、それらをうまくつなぎ合わせる事が行政には必要であるとのアドバイスは、当たり前のこととは言え、とても新鮮なインパクトを我々に与えてくれました。

いずれにしても、3人のアドバイザーは当地について真剣に考えていただくとともに、真摯な助言を与えてくださいました。どなたが欠けても今回のような成果を見ることはできなかったのではないかと感じています。

個々の地場産品に関わる人々の気持ちや、その背景にある物語にもっと光をあてて、見える形で表現すること、また、地域の人材を掘り起こし、うまくコーディネートすることが、時間はかかるかもしれませんが、着実な地域振興につながるのでしょう。

3. 今後の展望

今後は、今回の派遣事業によって発掘された人材と新しく生まれたネットワークを活かし、久々野地域の四季を通じた農産品及び加工品を用いたメニューを考案し、道の駅や地域の食卓の献立として提案したいと考えています。

その過程において、アドバイザーの皆様には再び当地にお越しいただき、最後まで見届けていただきたいと願っています。

滋賀県／米原市

商工観光課 梶田 悟

1. 派遣テーマと1年間の概要

米原市は、豊かな自然・歴史文化を有しており、それら資源や地域の特性を活用した経済効果の見込める観光施策を見出したいことから、アドバイザーの派遣をお願いしました。

第1回目の派遣では、アドバイザーの先生方に地域の現状を認識して頂く為、現地視察を行い、2日目に意見交換会を行いました。

現地視察については、現在、米原駅および周辺の整備を進めており、観光施策の展開を進める上において、駅は情報発信等の拠点施設と位置付けていることから、その現状と、市内の観光施設をご覧頂きました。

会議において、アドバイザーの先生方からは、観光素材に多様性があり、特に集落景観の素晴らしさを強調されました。また、市内にはそれぞれ地域特性が見受けら



地域視察におけるアドバイス風景

れることから、「伊吹」「山東」「米原・近江」という3つのエリア分けで振興策を検討してはどうかとのアドバイスを頂きました。

第2回目の派遣では、1回目にアドバイザーから頂いたアドバイスをもとに内部での協議を重ね、そこでの意見をもとに協議を行いました。

会議においては、集落景観や街並み保全の重要性と保全に向けた観光基本計画・景観法等の策定の必要性、エリア（地域）の特性を活かした事業展開の必要性等のアドバイスを頂きました。

第3回目の派遣においては、これまでの協議の継続と併せ、現在、総合政策課、農林振興課において農村集落対策として実施している空き家対策等の取り組みの現状を提示し、それらとの連携の可能性、最終のまとめの協議を行いました。



アドバイス風景

2. 派遣の成果、感想、反省点など

当市は豊かな自然・歴史文化を有し、観光素材が豊富であるとの認識はしていましたが、アドバイザーの先生方からは、自然・歴史文化の他に、昔の風情ある農家的な建物（ペンガラ塗り、屋根波の美しさなど）等集落景観の素晴らしさを賞賛頂きました。普段の生活の中で見落としている点も多く、米原市の真の魅力とは何かを気づ

かせて頂いたように思います。

今後さらに米原の魅力（素材）を探し、その資源を保全・活用していく取り組みが必要であり、「穏やかな観光」というスタンスが米原市には適していることを示唆頂きました。

また、今回の派遣を通して、様々な協議を進めて来ましたが、地域振興を進めるうえで、議論の場の大切さや行政と住民の意識の共有の必要性を再認識させて頂きました。今後地域の人々との協議をいかに深め、共通認識を持っていくかが課題であると考えています。

3. 来年度に向けた予定や希望

現在、市内を幾つかの区域に分けての地域協議を進めていく予定です。この協議において、それぞれの地域の方々と話し合い、更なる資源の発掘と併せて、地域の魅力を共有し、地域に「やる気」の意識醸成を図って行きたいと考えています。

これを踏まえて、アドバイスを頂いた事柄も反映させた市の観光基本計画の策定に繋げて行きたいと考えています。

また、現在各課で進められている地域振興策との連携についても出来ることから着実に取り組みを進めて行きたいと考えています。

兵庫県／豊岡市

但東総合支所総務課 山下 文生

「たんたん温泉 福寿の湯は、資母地域の人たちが元気になる施設（活動拠点）です」。第3回の全体会議で行動目標が定まったときに出席者の気持ちがひとつになりました。

面積55km²、2,143人が暮らす資母地域は、市内30地区の中で過疎化・高齢化が急速に進んでいる農山村地域です。

「但東北部温泉を契機とした資母地域活性化方策」をテーマとした3回のアドバイザー派遣には、延べ284人の地域住民が参加、延べ20時間25分、活発な意見交換が繰り広げられました。

派遣受入組織である「資母地区振興対策協議会」には資母地区活性化委員会が設置され、アドバイザーから時には激しく、時には諭すような言葉で懇切丁寧にご指導いただきました。

公設民営を基本とし、昨年11月着工、今夏オープンを目指す温泉施設建設は、地域住民団体（資母地区振興対策協議会、温泉建設準備委員会、資母地区活性化委員会）などでは十分周知され、運営は自分たちで行わなければならないとの認識があったものの、一般住民へのアナウンスが弱く、住民発行機関誌配布や区長から住民への説明程度では不十分と住民への認識度の低さを指摘されました。

「温泉ができる」ではなく「温泉をつくる」という意識

変化、地域で何かしたい人を抱き込む展開を運動として取り組む人づくりとネットワーク、「行政依存型体質」からの脱却などアドバイザーからの的確な助言をいただきました。



アドバイス風景

運営管理組合設立総会前の第2回派遣受け入れ時には、事業計画や運営計画が曖昧でかなり厳しく、指導いただきました。しかし、これが刺激となり、3回目には管理組合として具体的な経営方針、経営戦略を提案しながらアドバイスを受けることができ、大変有意義であったと感謝しています。

運営方針（目標）は「住民の交流」「地域活動の活発化」「経営の確立」。経営戦略は、「地域住民の共同浴場、内風呂」など26項目。アドバイザーの助言を受けて、理念・目標・戦略を体系的に構成することができました。

具体的には、サポート集団の設立や家庭料理大集合などの提案もいただきました。これらの戦略は集落別、分野別説明会や意見交換会を繰り返し、実践時期や方法を組み立てながら温泉運営管理組合で足りないところは、地域住民に助けてもらう気持ちで取り組んでいくことになりました。

温泉を契機として地域活性化を図る所期の目的のためようやくスタートラインにたどり着いたと考えます。数多くいただいたアドバイザーの貴重な言葉をしっかりと受け止めて、温泉組合の経営の確立と地域活性化の両輪をうまくつなげ、地域が主体となり、元気な地域づくりへの歩みが確かなものになっていくことを見守っていきたいと思います。

徳島県／三好市

商工観光課 城野 義明

1. 派遣テーマと1年間の概要

徳島県三好市は、四国のほぼ中央に位置し、平成18年3月に徳島県西部域の6町村が合併して、人口約3万4千人、面積は721.48km²と四国で最大の面積を有する市と

して誕生しました。

本市には、霊峰「剣山」・四国三郎「吉野川」・四国霊場66番札所「雲辺寺」・平家落人伝説の残る「祖谷のかずら橋」など自然豊かな観光資源や歴史的文化遺産が数多くあり、これらを活かして観光振興を図っています。

今回の地域振興アドバイザー派遣事業では、「三好市の観光方針と観光関連第3セクターの経営改善」をテーマとし、観光資源と第3セクター（4社）の管理運営施設の連携を図り、地域の活性化と第3セクター4社が管理運営する温泉宿泊施設3施設、石の博物館・観光情報館の複合施設1施設、キャンプ場1施設の経営改善を目的に事業を進めてきました。

第1回目の派遣では、市長とアドバイザーの面談を終え、アドバイザーの方々に市の現状を詳細に把握していただくため、第3セクターの管理運営施設及び周辺観光施設の視察と第3セクター経営者・第3セクター検討委員会（行政）とアドバイザーとの意見交換会を行った。アドバイザーの方々からは、第3セクターの管理運営施設や周辺観光施設を視察した感想を含めた意見があった。また、第3セクター管理運営施設の繁忙期以外のセールの方法や何をターゲットにし、どのようなメニューを提供しているかなど、経営方針についての意見を求められた。

第2回目の派遣では、前回の派遣で視察出来なかった観光施設及び民間温泉宿泊施設の視察と、第3セクター経営者・第3セクター検討委員会とアドバイザーの方々を含め会議を行った。会議の内容は、経営者の施設運営についての考え方や行政が提案した「基本方針」、アドバイザーからは経営シミュレーションを含めどのようにして経営改善を進めていくか等の提案を頂くなど意見交換を行い、市としての具体的な「第3セクターの運営方針」を作ることとで会議を終了した。



アドバイス風景

第3回目の派遣では、前回のアドバイザーからの宿題であった、市としての具体的な「第3セクター運営方針」について第3セクター検討委員会より説明し、その内容について議論検討を行った。その結果を踏まえ2日目に、市長とアドバイザー・第3セクター検討委員会の面談の場を設け、アドバイザーからの提言と市長の第3セクター運営に

ついでの考え方など意見交換を行った。

2. 派遣の成果、感想、反省点

全国で第3セクターの破綻等が言われている中、市町村合併が第3セクター問題を一層深刻化させている。三好市に於いても、旧町村で設立した第3セクターの大半が累積赤字を抱えた会社であり、経営者の考えも第3セクターは地域住民の雇用の場であり、少々の赤字は仕方がないと言う考えであった。

しかし、現在では市の財政が厳しい状況で、第3セクターの経営改善が急がれる中、今回の地域振興アドバイザー事業を実施し、アドバイザーからの提言等により市としての第3セクター運営方針の確立と、第3セクター経営者の考え方が、赤字解消・健全経営により地域住民の雇用の場生まれ地域活性化に繋がるといった考え方に変わりつつあることが成果であるといえる。

3. 来年度に向けた予定や希望

今後は、アドバイザーからの提言を踏まえ、市と第3セクター経営者が定期的に会議を開き、アドバイザーと協議検討した「第3セクター運営方針」を実現させ、第3セクターの経営改善に努めると共に周辺観光施設との連携により、地域活性化や観光振興に繋がるように努めます。

愛媛県／宇和島市

商工観光課 大塚 志織

1. 派遣テーマと1年間の概要

当市アドバイザーの派遣テーマは「牛鬼の里のブランド構築とツーリズム事業の展開」というもので、郷土の奇習「牛鬼（うしおに）」にちなんだブランド構築と特色あるツーリズムメニューの模索を行うというものでした。

これまで3回の派遣で、宇和海や離島、半島、伊達藩ゆかりの町並みや寺社仏閣など、各所の地域資源をご案内させていただき、それらを生かしたツーリズムメニューを作り出していくため、「研究員」の意識をどう方向付けしていくのかご検討いただきました。

2. 派遣の成果、感想、反省点など

受け入れ団体の「うわじま虹色ツーリズム研究会」は8月に発足したばかりで、研究員は、まだまだ、「グリーン・ツーリズム」とは何か、自分たちが何をすればいいのかなど、主体的に取り組むには、目的も意識も差が大きく、3名のアドバイザーの方もどこから手をつけていいのか、戸惑われたことと存じます。

第2回目の派遣時には、そのずれを徹底的に討論しようとご提案いただき、先進地域の取り組みの紹介や、ワークショップを開催していただきました。



ワークショップ風景

結果、参画している研究員自らが、自分の人生を見直すこと、自分自身の中で、絶対揺るがないこだわりの部分を明確に意識することができ、個々のやりたいこと＝個性とこだわりのあるツーリズムメニューが徐々にはっきりとした像になっていきました。

3名のアドバイザーの皆様は、今回、事業の制限を越えて親身になっていただきましたが、私自身は、もっと踏み込んで、アドバイザーと研究員との架け橋をすべきではなかったかと反省しています。



「うわじま虹色ツーリズム」発表in酒蔵

3. 今後の期待

最終派遣となった2月には、今後の取り組みのポイントが3つ示されました。

- (1) 個々の研究員のステップアップ
- (2) 研究会での総力戦
- (3) 担い手、仲間づくり

そこで、来年度は、テーマを一つに絞り、みんなが、そのテーマの中でできること、提案したいことを考え、それをまとめあげる作業を行うこととしました。まだまだ亀のような歩みではありますが、いつの日か、全国の皆様に誇れる素晴らしいツーリズムメニューが発信できるようになればと夢を膨らませています。

最後になりましたが、豪快な外見に似合わず、繊細な

心で闘牛の真剣勝負に涙してくれた寺川さん、鋭い眼光が恐ろしげですが、ぼそぼそと「地域と恋愛したいんだ」と心に残る素敵な発言をしてくれた富田さん、一番年長さんのはずなのに、一番の和み系で、ほわほわと宇和島のいいところをたくさん見つけてくださった安島教授、楽しい日々をありがとうございました！

今後も末永くおつきあいください。またいつでも宇和島に遊びにきさいや。

愛媛県／上島町

企画情報課 島本 計治

1. 派遣テーマと1年間の概要

派遣テーマは、「都市部（東京近郊都市）と友好都市としての交流推進（情報発信基地の設置推進）」であり、受け入れ組織は(株)いわぎ物産センター等地域づくりグループであった。

第1回目（8月22日～24日）：上島町4島（旧4町村）の、現地視察、地域づくり団体との協議を行った。各島をめぐり、特産品・新商品の方向性、スポレクの経営改善、レモンの生産・販売のあり方、漁業や観光等、様々な課題について話し合った。

3日間を通し、離島どうしの合併故に問題点が様々であり、島人の視点が異なることが認識された。

第2回目（11月28日～12月1日）：各島の課題が多岐に渡るため、一つのテーマに絞り込むことを目標に協議を進めた。魚島では、主に漁業者と協議し、漁獲量改善策、漁場の観光利用、漁家民宿などの提案を受けたが、受け入れる態勢がほとんどない状況であることが明らかとなった。生名島では、島で最大の問題となっているスポレクの改善策を模索した。岩城島では、今後、町の中での活性化について議論をすることとなった。弓削島においては、ひじきの活用方法などを話し合った。

以上の協議を経て、アドバイザーより、上島町の中心テーマはレモンによる活性化策で、レモンが全体を引っ張る形がベターであるとの提案を頂いた。

第3回目（平成20年2月8日～10日）：魚島では、婦人を中心に協議し、現状のままではいけないという意見が出され、やっと対話の一步が始まったと感じた。生名島はスポレクの営業活動改善策における予想以上の進展に、アドバイザーからねぎらいの言葉さえ聞かれ、今後の進展

が期待される。岩城島では、レモンを町の中心テーマとするための意義や、テストショップの運営方法等が話し合われた。



特産のレモンを囲んでの協議（岩城島）

2. 派遣の成果、感想、反省点など

3回の派遣を通して、合併はしたものの旧4町村で方向性がまちまちであり、町としての進展のためには、全体のテーマの絞り込みとそれに向かっての振興策の展開が必要と認識された。町は、外部の意見を真摯に受け止め、客観的な視点を持つことの大切さが認識できた。今後の町の施策展開には、少なからず影響を与えらると思われる。

3. 来年度に向けた予定や希望

来年度は、アドバイザーから頂いた提案をもとに、島ごとにそれぞれの課題解決のため島単位で動き出すこと、それと同時に、上島町のさらなる振興のため一つのテーマによる協同した動きを始めたいと考えている。

そのため、テーマを「レモンの島かみじまのIターンによるIターン募集作戦」とし、地域資源活用構想策定等支援調査に要望書を提出した。これは、旧4町村の共通課題である人口減少・後継者不足に対応するため、レモンの島をイメージシンボルとしてすでに4島にIターンで住んでいる人に新しいIターン者を呼んでもらうものだ。採択されれば、今回のアドバイス内容の実現に一步近づく。しかしこの作業にも今回のアドバイザーには助力願わなくてはならないので、合わせて今後もよろしく願いいたします。もう少し付き合ってください。これを縁に今後は見守り隊をお願いいたします。

編集・発行

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-11-7 第二文成ビル201
財団法人 日本地域開発センター
TEL. 03 (3501) 6856 FAX. 03 (3501) 6855

〒100-8918 東京都千代田区霞が関2-1-3
国土交通省都市・地域整備局地方整備課
TEL. 03 (5253) 8404 FAX. 03 (5253) 1588